

人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 追加選定リストの公表について

平成25年3月18日
人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト選定委員会

「人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト選定委員会」では、「人と暮らしの伊那谷遺産」の選定作業を進めているところですが、今般、新たに31件を追加選定し、都合79件の追加選定リストを取りまとめましたので公表します。

選定委員会としては、これらの周知に努めるとともに、併せて必要な活用方法を提案する考えです。また、今後、選定数100を当面の目標として、逐次追加公表する予定です。

○選定リスト

※赤色文字は、追加選定した31件です。

なごやま みずよけ 名古屋の水除け	りへえていぼう 理兵衛堤防	わぞさぼうえんてい 上蔵砂防堰堤
あわさわがわほりぬき 粟沢川掘り抜き	かわじのさとかおくいてんきねんひ 川路郷家屋移転記念碑	さぶろくさいさいこうすいひよう 三六災最高水位標
さんかいばんれいとう ろくじぞう 三界萬霊塔／六地藏	おおにしやまほうかいち 大西山崩壊地	とびがすだいほうかいち 鳶ヶ巣大崩壊地／ とびがすだいほうかいち 鳶ヶ巣大崩壊地のビューポイント
ひやっけん ひやっけん 百間ナギ／百間ナギのビューポイント	よがわせちく はんらん 夜川瀬地区の氾濫	しどくしゅうらくあと 四徳集落跡
きたがわしゅうらくあと 北川集落跡	よなきいし 夜泣き石	よなきじぞう ださら おおいし 夜泣き地藏／出砂原の大石
とおやま まいぼつりん 遠山の埋没林	ひらおか 平岡ダム	かわらべんてん うしろむきべんてん 河原弁天(後ろ向き弁天)
にしてんりゅうかんせんすいろ えんとうぶんすいこうぐん 西天竜幹線水路 円筒分木工群	ひがしてんりゅういっかんすいろ 東天竜一貫水路	りゅうさいいっかんすいろ 竜西一貫水路
りゅうとういっかんすいろ 竜東一貫水路	きゅうふかさわがわすいろきょう (旧)深沢川水路橋	でんべえごい 伝兵衛五井
きそやまようすい 木曾山用水	みこしぼつやさぶろう いど 御子柴艶三郎による井戸	いなしすわがた ししがき 伊那市諏訪形の猪垣
こやきょう 姑射橋	みなばらほし 南原橋	きたのさわめがねばし 北の沢眼鏡橋
さかどぼし 坂戸橋	こしぼぼし 小渋橋	びつたらぼし びつたら橋
いりふねふなつきば 入船船着場	ときまたこう 時又港	せんじょうじき 千畳敷カール
たぎりちけい たぎりちけい 田切地形／田切地形のビューポイント	かすみてい 霞堤	いなかいどう さんしゅうかいどう 伊那街道(三州街道)
やすおか 泰阜ダム	そうべえていぼう 惣兵衛堤防	おおはし 大橋
さんよりこより	とおやま しもつきまつり 遠山の霜月祭	まつかわ 松川プール
さんしんてつどう 三信鉄道	ともていぼう 伴野堤防	ざこうじしかわよけ 座光寺石川除
しも みず お志茂の水よけ	ひなたざわさぼうえんてい 日向澤砂防堰堤	ななかまさぼうえんてい 七釜砂防堰堤
ちやうす 茶臼ナギ	あらかわだいほうかいち 荒川大崩壊地	みわ 美和ダム
こしぼ 小渋ダム	おたぎりがわ いすじ 太田切川の井筋	にしてんりゅうかんせんすいろ りゅうまつ かいだんこう 西天竜幹線水路 流末の階段工 (小沢のそろばん滝)
おん だ いすい 恩田井水	せんになづかこうえん じょうがいけ 千人塚公園 城ヶ池	みぶがわ しんりんてつどうあと 三峰川の森林鉄道跡
とおやま しんりんてつどう なしもとちよぼくじょう 遠山の森林鉄道 梨元貯木場	おぐろはつでんじょ 小黑発電所	おおくぼはつでんじょ 大久保発電所
にじばし 虹橋	めがね橋 (長姫橋)	いなじばし 伊那路橋
きたのじょうばし 北の城橋	なかのばし 中之橋	なんぐうおおはし 南宮大橋
てんりゅうばし 天竜橋	はごろもざきばし 羽衣崎橋	うしくびとうげ 牛首峠
じぞうとうげ 地藏峠	うとうとうげ 善知鳥峠	ゆきまつり 雪祭
てんりゅうむら しもつきかくら 天龍村の霜月神楽	おおだいらとうげ 大平峠	ふかみいけ 深見池
だくりゅう こ いなだにさいがい きろく 濁流の子～伊那谷災害の記録～ しゅつぽんぶつ (出版物)		

空間、時間軸などの繋がりやストーリー性を重視した分類について

1. 「土木工学的な工夫」を重視したグループ

※(重複)とは、複数のグループに分類されているものです。

名 称	説 明	所 在 地
(重複) <small>わぞさほうえんてい</small> 上蔵砂防堰堤	小渋川に築かれた堤高 23m のアーチ式コンクリート造堰堤。1954 (昭和 29) 年完成した天竜川流域唯一のアーチ式砂防ダム。1951 (昭和 26) 年着工で 1954 (昭和 29) 年に完成したが、その後の洪水で底ぬけを起こし、1961 (昭和 36) 年に復旧事業が行われた。1966 (昭和 41) 年度には副ダムの嵩上が、1970 (昭和 45) 年には第 2 副ダムが施工され、現在に至っている。2009 (平成 21) 年に国の登録有形文化財に登録された。	大鹿村大河原
(重複) <small>にしてんりゅうかんせんすいろ えんとうぶんすいこうぐん</small> 西天竜幹線水路 円筒分水工群	西天竜幹線水路から水を分けるために設けられた分水施設群。現在、円筒分水工が 35 基活用されており、大小の分水を加えると実に 83 基に上るとされる。2006 (平成 18) 年に土木学会選奨土木遺産に認定された。	辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市
(重複) <small>ひがしてんりゅういっかんすいろ</small> 東天竜一貫水路	辰野町平出の天竜川左岸で取水して、辰野町赤羽・樋口地区から箕輪町北小河内地区へ流下している、総延長 9,140m の竜東地区で重要な幹線用水路。1927 (昭和 2) 年に用水に取水する頭首工が建設された。頭首工の表面は、自然石を配置し、堤体はカーブしている。東天竜用水路頭首工は日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	辰野町平出～赤羽～樋口
(重複) <small>きゅうふかさわがわすいろきょう</small> (旧) 深沢川水路橋	西天竜幹線水路事業で深沢川(箕輪町)の谷を越えるために造られた水路橋。1927 (昭和 2) 年完成。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)及び信濃の橋百選に選定されている。現在は町道(車道)として利用されている。	箕輪町中箕輪八乙女
(重複) <small>きたのさわめがねばし</small> 北の沢眼鏡橋	田切地形である北の沢川(辰野町)の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成 1889 (明治 22) 年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。国の登録有形文化財及び信濃の橋百選に選定されている。	辰野町羽場
(重複) <small>さかどばし</small> 坂戸橋	1993 (昭和 8) 年に竣工した優美な鉄筋コンクリートアーチ橋で、建設当時、鉄筋コンクリートアーチ橋としては我が国最大のスパンを誇った。コンクリートでありながら木彫の面取りを採り入れ、柱は上に細くそそり立つ。そのデザインは圧巻である。2010 (平成 22) 年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	中川村大草～片桐
(重複) <small>やすおか</small> 泰阜ダム	1935 (昭和 10) 年に竣工した天竜川流域では最も古い歴史を持つ発電用ダム。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	泰阜村～阿南町
(重複) <small>さんしんてつどう</small> 三信鉄道	JR 飯田線の「天竜峡～三河川合(約 70km)」区間で、1937 (昭和 12) 年に全線開通した。天竜川の険しい地形と中央構造線のもろい地質に阻まれ、日本の鉄道史に残る難工事となった。泰阜ダムや平岡ダムの建設資材の運搬などにも大きな効力を発揮した。北海道の多くの鉄道で測量技士を勤めた川村カ子トがアイヌ測量隊を率いて断崖絶壁での測量作業をやり遂げ、難工事の末に完成させたとの逸話もある。工事には朝鮮人労働者も多く従事していた。三信鉄道為栗駅 <small>してぐり</small> の北西には、信濃の橋百選に選定されている万古川橋梁がある。	新城市川合～飯田市川路 天竜峡
(重複) <small>ななかまさほうえんてい</small> 七釜砂防堰堤	仏像構造線の位置につくられた砂防堰堤。荒川大崩壊地から流出する土砂を調節するため、高さ 28m の砂防ダムが 1984 (昭和 59) 年に完成した。基礎岩盤が深いため、堰堤の基礎処理として簡易ケーソン工法を使用している。この工法の堰堤は全国的に珍しい。	大鹿村大河原
<small>みわ</small> 美和ダム	1959 (昭和 34) 年に竣工。三峰川に建設された高さ 69.1m の重力式コンクリートダム。洪水調節・灌漑・水力発電を目的とする国土交通省直轄の多目的ダム(特定多目的ダム)。近年、土砂堆積が進み、現在は堆砂率 200%にもなっているという。このため、上流から流れてくる土砂をダム湖に貯めず、下流に流すバイパストンネル工事が行われている。	伊那市長谷

<p>こしぶ 小渋ダム</p>	<p>1969（昭和 44）年に竣工。小渋川に建設された高さ 105m のアーチ式コンクリートダム。洪水調節・不特定利水による天竜川の治水のほか、下伊那郡の農地へのかんがいと水力発電を目的とする国土交通省直轄の多目的ダム。堤体の厚みが、他のアーチ式コンクリートダムより薄い事が特徴。その薄さにもかかわらず、漏水量が非常に少なく、良い施工だった事がうかがえる。美和ダムに匹敵するほどの流域面積を持ち、美和ダムと共に、天竜川の治水の要となるダム。</p>	<p>松川町生田</p>
---------------------	---	--------------

2. 「防災に対する意識」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 「未の満水」に学ぶことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
さんかいばんれいとう ろくじぞう 三界萬霊塔／六地藏	三界萬霊塔には、未の満水でなくなった多くの人々や獣などの冥福を祈る言葉が彫ってある。1695（元禄 8）年に松岡山安養寺の了溪禅師が建立した。六地藏は、1841（天保 12）年に再建された。市田駅近くにある。	高森町下市田
よなきいし 夜泣き石	未の満水の際に、野底川上流の山崩れによって川が堰き止められた。その後、土砂が一気に決壊し、川幅の数十倍に広がった激流が土石流を発生させた。この土石流によって野底川の上流から松川合流点付近まで全長 7m にもおよぶ巨石が運ばれてきた。子どもが下敷きになって亡くなり、子どもの泣き声が聞こえてきたので、供養のために石の上に地藏を祀ったとされる。	飯田市上郷別府
よなきじぞう ださら おおいし 夜泣き地藏／出砂原の大石	未の満水の際の土石流で、大島川上流から流されてきた大石。高森町市田駅前の、ビルの裏側に石垣と挟まれたあまり人目につかない場所にある。受難者を供養するために二基の地藏がある。石の横を通ると赤ん坊の泣き声が聞こえ、地藏様を建てたら泣き止んだと言い伝えられている。	高森町下市田

※未の満水とは：1715年に発生した天竜川上流の洪水のなかでも特筆すべき被害を与えたもので、発生年の十二支から「未[ひつじ]の満水」と呼ばれている。

(2) 「三六災害」に学ぶことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
かわじのさとかおくいてんきねん ひ 川路 郷 家屋移転記念碑	三六災害により川路地区の低平地の家屋は壊滅的な打撃を受け、災害後移転した。1966（昭和 41）年に現在の堤防が完成し、家屋の移転が終わったのを記念して建てられた記念碑。川路駅周辺の旧国道沿いには 170 戸が移転した跡地に塀や門が残されている。	飯田市川路
さぶろくさいさいこうすいひょう 三六災最高水位標	川路駅前にある三六災害時の最高水位を示す標柱。地上から 3～4m の高さまで水位が上昇したことが示されている。	飯田市川路
おおにしやまほうかいち 大西山崩壊地	1961（昭和 36）年 6 月 29 日、大鹿村の小渋川沿いにある大西山が大崩壊した。崩壊は高さ 450m、幅 500m、厚さ 15m に渡り、大量の石や土砂が小渋川の堤防よりもはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せた。濁流によって約 30 万 m ² が消失し、家屋 40 戸が流され、42 名の命を奪った。	大鹿村大河原
しどくしゅうらくあと 四徳集 落跡	周辺地域は小さい谷が網の目のように広がる丘陵地帯で、三六災害時には、土石流が起こり、小渋川合流点で河床が約 10 m 上昇した。中川村の四徳集落では 80 戸のうち 61 戸が被災し、7 名が死亡した。人々は集団移住を余儀なくされ、700 年に及ぶ集落の歴史に終止符を打った。今では原野に戻っている。	中川村四徳
きたがわしゅうらくあと 北川集 落跡	大鹿村の鹿塩川沿いにあった北川集落は、1961（昭和 36）年 6 月 27 日、豪雨による土石流で 39 戸の民家と北川分校が土砂の下に埋まった。さらに、29 日には西山が地すべりを起こし、鹿塩川を一時的に堰き止めた。鹿塩川にかかっていた橋の取り付け部分が流され、コンクリート部分だけが門のように残る。記念碑も立っている。	大鹿村鹿塩
(重複) こしぼし 小渋橋	三六災害の際に発生した大西山の大崩壊は、42 名の命を奪った。三六災害で一帯が賽の河原と化した中で、変わらぬ姿で架かっていた 3 連アーチの橋。アーチと桁側面のへこみがしっかりと造られ、コンクリート橋の外観を引き締めている。白銀の赤石岳をバックにしたシルエットが美しい。信濃の橋百選に選定されている。	大鹿村大字大河原
だくりゅう こ い なだにさいがい 濁流の子～伊那谷災害の きろく しゅつばんぶつ 記録～（出版物）	三六災害をまのあたりにした小学生、中学生、高校生らの作文を集めたもので、200 ページもの文集をガリ版の原紙切りから印刷まで、碓田榮一さんがほとんど独力で 1964（昭和 39）年に発行した出版物。文集は当時の学童、生徒自身の言葉で災害の恐ろしさ、友人を失った悲しみ、災害で家や田畑を失った状態での不安な高校受験、見知らぬ人々からの励まし、復興の様子などが語られている。	該当なし

※三六災害とは：1961年(昭和 36 年)に発生した大雨による災害。特に長野県南部の伊那谷など天竜川流域に氾濫や土砂災害による甚大な被害を与えた事で知られている。

(3) 「遠山の地震」に学ぶことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
よがわせちくはんらん 夜川瀬地区の氾濫	1718（享保 3）年の地震（遠山地震）により、盛平山の北斜面が崩落し、岩塊が遠山川を堰き止めた。この時できた山が出山であり、亡くなった人の供養塔もある。遠山川が堰き止められて天然ダムができたが夜に決壊し、遠山川沿いにある和田集落の対岸の「夜川瀬地区」に土砂が流出・堆積して一夜にして氾濫原ができた。	飯田市南信濃和田
とおやま まいぼつりん 遠山の埋没林	714（和銅 7）年の大地震で山が崩れ、遠山川の堰き止め湖に木々が埋没した。現在は、当時の埋没林が河床に露出しており、南信濃大島、畑上などで見ることができる。これらの木のほとんどは、直径 50cm 以上の大木で、中には直径 1m 以上の巨木や樹齢 700 年以上のヒノキもあった。	飯田市南信濃

※遠山の地震とは：714 年と 1718 年に発生した大きな地震により、山が崩れて遠山川がせき止められ、その後決壊し大きな被害を与えたことで知られている。

3. 「自然環境に適応してきた先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 全国的にも希な地球活動の痕跡を体感できるもの

名 称	説 明	所 在 地
とびが す だいほうかいち とびが す 鳶ヶ 巣 大崩壊地 / 鳶ヶ 巣 だいほうかいち 大崩壊地のビューポイント	明治以前から崩壊が続いている面積が 30ha にも及ぶ大崩壊地。土砂が小渋川をせき止め、たびたび災害を引き起こしていた。川沿いには押し出された扇状地が小渋川に削られて、何層にもなったレキ層が見られる。大鹿村上蔵の福徳寺前 <small>わぞ ふくとくじ</small> から崩壊地が望め、案内看板もある。	大鹿村大河原 / 大鹿村上蔵 (福徳寺前)
ひやっけん ひやっけん 百間ナギ / 百間ナギのビューポイント	与田切川の源流部に存在する「百間ナギ」と呼ばれる大崩壊地は、崩壊で堆積した礫層の厚さが 60m に達し、現在も常に土砂の流出が続いている。道の駅・花の里いいじま付近から望むことができる。	飯島町 / 飯島町七久保 (道の駅・花の里いいじま)
せんじょうじき 千畳敷カール	日本で唯一、山の麓から見えるカール。氷河時代には千畳敷は一年中氷に閉ざされ、氷が谷沿いに流れていた。カールはそのときの氷河によって作られた地形。カールの先端には氷河によって押し出された石や土が固まってできたモレーンとよばれる巨大な丘がある。カール壁ではしばしば雪崩が起きるが、モレーンの上部では雪崩が起きる心配がないため標高 2,612m にあるロープウェイの終着駅はモレーンの上に作られている。	駒ヶ根市赤穂
たぎりちけい たぎりちけい (重複)田切地形 / 田切地形のビューポイント)	天竜川の河岸段丘や断層崖を横断するように、太田切川、中田切川及び与田切川などが流れ、段丘面を激しく浸食して形成された伊那谷特有の地形。また、田切地形を一望することができるビューポイントとして、陣馬形キャンプ場が挙げられる。	宮田村、駒ヶ根市、飯島町 / 中川村大草 (陣馬形キャンプ場)
ちやうす 茶臼ナギ	小渋川上流上沢に位置する前茶臼山東側に広がる崩壊地。前茶臼山断層に関連して、崩壊が生じている。地質的には秩父中生層のチャート・砂岩・泥岩の互層により構成されており、1898 (明治 31) 年及び 1929 (昭和 4) 年に大災害が発生したとされている。一般的に地質的なもろさから中央構造線沿いの山岳地帯は崩壊地が多いとされているが、これに加えて、1600 年以来約 150 年も樽木の原木であるサワラを伐採したり、モミ・ツガ類を大量に伐採したことも不安定さを増す要因となったとする説がある。	大鹿村
あらかわだいほうかいち 荒川大崩壊地	大鹿村広河原に位置する荒川大崩壊地では、豪雨に伴い、これまでも継続的に崩壊が発生している。崩壊した土砂の大半は、一旦溪流に堆積し、その後の豪雨により土石流化して下流へと流下する場合が多いと考えられている。	大鹿村
ふかみいけ 深見池	深見池は最大深度 8.5m、周囲 700m の天然の湖。1662 (寛文 2) 年の大地震の時に発生した、大きな地すべりの窪地に水がたまってできた。周囲が丘に囲まれていて風による水のかきまぜが少ないため、夏期には水面下 4m より深い層には酸素がとどかず、硫化水素を含むようになる。水中の硫酸イオンの量の多い火山・汽水地域でもないのに、夏期の光合成硫黄細菌層の発達するのは大変珍しく、国際学会でも発表されたことから、「LAKE FUKAMI IKE」として国際的にも著名になった。	阿南町東條

(2) 伊那谷特有の田切地形に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

名 称	説 明	所 在 地
たぎりちけい たぎりちけい (重複)田切地形 / (田切地形のビューポイント)	天竜川の河岸段丘や断層崖を横断するように、太田切川、中田切川及び与田切川などが流れ、段丘面を激しく浸食して形成された伊那谷特有の地形。また、田切地形を一望することができるビューポイントとして、陣馬形キャンプ場が挙げられる。	宮田村、駒ヶ根市、飯島町 / 中川村大草 (陣馬形キャンプ場)
きたの さわめがねばし (重複)北の沢眼鏡橋	田切地形である北の沢川 (辰野町) の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成 1889 (明治 22) 年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。国の登録有形文化財及び信濃の橋百選に選定されている。	辰野町羽場
おおたぎりがわ いすじ (重複)太田切川の井筋	駒ヶ根市や宮田村は太田切川の扇状地上にあり、太田切川は農地や集落より低い崖下を流れていたため、農業用水や生活用水の確保に苦勞していた。そこで人々は谷の出口から取水することを考え、用水路が開削された。太田切川の井筋は上流から①黒川井 (宮田井ともいう)、②「上	駒ヶ根市、宮田村

	の井」、③「下の井」、④丸山井、最下流に⑤下平井の五用水があり、太田切川左岸の宮田七箇村は①と④の水利権を、右岸の駒ヶ根市は②③⑤の水利権を持っていた。「上の井」は木曾山脈山麓をほぼ等高線沿いに流れるので、別名「横井」とも呼ばれている。	
(重複) 恩田井水 <small>おんだいすい</small>	水不足に苦労した阿智村の伍和（ごか）地区に水を運んでいる用水。大変険しく崩壊しやすい花崗岩地帯の山中を山越え谷越えして造られている。伍和地区が水利権を売る形で、下條村親田地区にもつなげており、この収入で用水の維持管理をしている。	阿智村
(重複) 千人塚公園 城ヶ池 <small>せんにんづかこうえん じょうがいけ</small>	戦国時代に山城があったが、織田軍の侵攻により落城し、その際になくなった兵士やその武具などがこの場所に埋没された。そこから「千人塚」と呼ばれる。城ヶ池はもとは城の空堀だったが、昭和初期に水を引いて灌漑用の温水ため池にした。池の築造は、当時政府が国内ですすめていた農村経済厚生事業により展開されたものである。2010（平成22）年ため池百選に選定された。	飯島町七久保

(3) 水害や土砂災害に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

名称	説明	所在地
名古屋山の水除け <small>なごやま みずよけ</small>	南信濃の南和田名古屋山のゆるい斜面は、崖崩れと土石流によってできたものである。江戸時代につくられた水除けの堤防が残っている家があり、昭和の初めの土石流でも家を守った。	飯田市南信濃南和田
理兵衛堤防 <small>りへえていぼう</small>	中川村にある、松村理兵衛忠欣、常邑、忠良の三代にわたって天竜川に築かれた堤防。1808（文化5）年に完成。天竜川の大水の度に決壊し、そのつど補強や増築を繰り返してきた。時には新たに作り替えもしてきた。現在も現地に保存されており、天の中川橋からその一部を見ることができる。また、一部は天の中川橋のたもとに移築復元されている。	中川村片桐
(重複) 上蔵砂防堰堤 <small>わさくらさぼうえんてい</small>	小渋川に築かれた堤高23mのアーチ式コンクリート造堰堤。1954（昭和29）年完成した天竜川流域唯一のアーチ式砂防ダム。1951（昭和26）年着工で1954（昭和29）年に完成したが、その後の洪水で底ぬけを起こし、1961（昭和36）年に復旧事業が行われた。1966（昭和41）年度には副ダムの嵩上が、1970（昭和45）年には第2副ダムが施工され、現在に至っている。2009（平成21）年に国の登録有形文化財に登録された。	大鹿村大河原
栗沢川掘り抜き <small>あわさわがわほりぬき</small>	栗沢川の氾濫を防ぐため、切り通しを掘り、栗沢川の流路を三峰川へ繋げるように変更する大工事を実施した。主な工事は1844（弘化元）年に一段落をみた。道路工事により掘り抜きを拡幅し、往時の雰囲気は留めていない。掘り抜きの上流に由来を示す看板と市野瀬城主の墓石がある。	伊那市長谷市野瀬
河原弁天(後ろ向き弁天) <small>かわらべんてん うしろむきべんてん</small>	弁天橋下流左岸の河原の自然石の上に祀られ、出水規模の目安にされてきた。天竜川通船の盛んだった江戸時代、商いを営む人たちが祀ったと伝えられる。1738（元文3）年の大洪水で村境の争いが起こったとき、大岡越前守忠相が裁許を下した判決は「大岡裁き」と呼ばれている。	飯田市下久堅下虎岩
霞堤 <small>かすみてい</small>	堤防の一部分を切り、下流側の堤防を田んぼや村のある方へ斜め上流に延ばし、ある程度の長さにわたって上流からの堤防と並行するようにするようになったもの。洪水の一部を氾濫源に逆流するように導き、堤防の決壊を防ぐとともに洪水を調節する効果がある。	伊那市美篤
惣兵衛堤防 <small>そうべえていぼう</small>	飯田藩は現在の明神橋下流の場所に堤防を造る計画を立て、当時75歳の中村惣兵衛を工事長に任命して工事を開始した。1752（宝暦2）年に完成。大川除堤防、惣兵衛川除とも呼ばれる。出水ごとに補強工事がほどこされ、明治以後、上流下流に数条の堤防も新設された。市田・座光寺・上郷の沿岸低地は、市田田圃と言われる米の産地となった。しかし、1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防は破堤した。1854（安政元）年、「惣兵衛翁供養塔」が建立された。	高森町下市田

<p>とものでいぼう 伴野堤防</p>	<p>天竜川を挟んで対岸の惣兵衛堤防<small>そうべえていぼう</small>からの水はねによる激流によって度々大災害を被ったことを契機として、惣兵衛堤防完成<small>そうべえていぼう</small>より57年後の1809（文化6）年に完成した。1828（文政11）年の大出水でほとんどが流失。その後も建設と修復が繰り返された。1883（明治16）年、松尾千振<small>まつおちふる</small>は伴野村有志による「開墾組」を組織し、堤防建設を進めた。その後も、堤防補強・修理が行われ、1904（明治37）年に一応完成したが、1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、壊滅的に破壊された。昔の伴野公園に千振と開墾組の石碑がある。</p>	<p>豊丘村神稲</p>
<p>ごこうじいしかわよけ 座光寺石川除</p>	<p>天竜川を挟んで対岸の伴野堤防<small>とものでいぼう</small>によりはね返された激流は対岸の座光寺村めがけて直進していき、座光寺石川除を造る契機となった。伴野堤防完成<small>とものでいぼう</small>より22年後の1831（天保2）年に完成した。1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防<small>そうべえていぼう</small>と伴野堤防は破堤したが、座光寺石川除の保存状態は極めて良い。現在は市道の道路端、耕地の真ん中に位置している。村で建設資金を集めて1831年に完成させた堤防で、1835年には約76mに渡り崩れ、現在残っているのは1868（明治元）年のもの。</p>	<p>飯田市座光寺</p>
<p>しもみず お志茂の水よけ</p>	<p>古くは前沢川の川筋と考えられる。松村家（屋号お志茂・松村理兵衛の分家）では水害から屋敷を守り、また下流側にある地域の田畑を守るため、上流側に向けて鋭角に船形の石積みの堤防を築いた。理兵衛堤防の西250mの位置にある。</p>	<p>中川村片桐</p>
<p>ひなたざわさぼうえんてい 日向澤砂防堰堤</p>	<p>1933（昭和8）年、飯島町七久保日向澤に砂防堰堤が建設された。景観や強度への配慮から間知石積ではなく野面石積とした堰堤。また法切、基礎工事にも工夫を施した。本事業は農民を労働者として雇用して救済する「農救事業」により行われた。 間知石積：工業規格で規定された大きさに加工した角錐型の石材を用いた石積 野面石積：自然石を用いて、石肌の風合いを活かし、面をそろえた石積</p>	<p>飯島町七久保</p>
<p>（重複） ななかまさぼうえんてい 七釜砂防堰堤</p>	<p>仏像構造線の位置につくられた砂防堰堤。荒川大崩壊地から流出する土砂を調節するため、高さ28mの砂防ダムが1984（昭和59）年に完成した。基礎岩盤が深いため、堰堤の基礎処理として簡易ケーソン工法を使用している。この工法の堰堤は全国的に珍しい。</p>	<p>大鹿村大河原</p>

4. 「水の恵みとふれ合うことができる先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 電源開発に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
ひらおか 平岡ダム	1951 (昭和 26) 年に竣工した発電用ダム。天竜川流域で戦前に建設・計画されたダムの中では、最大の高さ(62.5m)であり、「暴れ天竜」が作り上げてきた溪谷がそのままダム湖となっている。太平洋戦争の時代に中国・朝鮮半島の人々や敵対する連合軍の捕虜を強制的に使役して建設した歴史を持つ。	天龍村大字平岡
やすおか (重複)泰阜ダム	1935 (昭和 10) 年に竣工した天竜川流域では最も古い歴史を持つ発電用ダム。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	泰阜村～阿南町
さんしんてつどう (重複)三信鉄道	JR 飯田線の「天竜峡～三河川合 (約 70km)」区間で、1937 (昭和 12) 年に全線開通した。天竜川の険しい地形と中央構造線のもろい地質に阻まれ、日本の鉄道史に残る難工事となった。泰阜ダムや平岡ダムの建設資材の運搬などにも大きな効力を発揮した。北海道の多くの鉄道で測量技士を勤めた川村カ子トがアイヌ測量隊を率いて断崖絶壁での測量作業をやり遂げ、難工事の末に完成させたとの逸話もある。工事には朝鮮人労働者も多く従事していた。三信鉄道為栗駅 <small>してぐり</small> の北西には、信濃の橋百選に選定されている万古川橋梁がある。	新城市川合～飯田市川路 天竜峡
おぐるほつでんしよ 小黒発電所	伊那谷で一番古い発電所。1913 (大正 2) 年に完成し、伊那電気鉄道等、上伊那地域の発展に大きく寄与した。現在は機械の取替えにより 1100 キロワットの発電ができるようになった。1913 (大正 2) 年に小学校の集団登山で 11 名の遭難者を出した事件を題材にした新田次郎の小説「聖職の碑」にある「内の萱発電所」は、この小黒発電所のことである。	伊那市伊那
おおくほつでんしよ 大久保発電所	下流にある南向発電所の建設用として、1926 (大正 15 年) 11 月から 1927 (昭和 2 年) 9 月にかけて、天竜川電力株式会社がわずか 10 か月間で建設した。特徴は、4 台の水車が水槽の中に入っていて、落差が 5.7m と低い全国でも珍しい発電所。南向発電所建設以後は発電した 1500 キロワットの電気を、上伊那地区の家庭と工場に送っている。	駒ヶ根市東伊那

(2) 利水開発に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
にしてんりゅうかんせんすいろ (重複)西天竜幹線水路 えんとうぶんすいこうぐん 円筒分水工群	西天竜幹線水路から水を分けるために設けられた分水施設群。現在、円筒分水工が 35 基活用されており、大小の分水を加えると実に 83 基に上るとされる。2006 (平成 18) 年に土木学会選奨土木遺産に認定された。	辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市
ひがしてんりゅういっかんすいろ (重複)東天竜一貫水路	辰野町平出の天竜川左岸で取水して、辰野町赤羽・樋口地区から箕輪町北小河内地区へ流下している、総延長 9,140m の竜東地区で重要な幹線用水路。1927 (昭和 2) 年に用水に取水する頭首工が建設された。頭首工の表面は、自然石を配置し、堤体はカーブしている。東天竜用水路頭首工は日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	辰野町平出～赤羽～樋口
きゅうふかさわがわすいろきょう (重複)(旧)深沢川水路橋	西天竜幹線水路事業で深沢川(箕輪町)の谷を越えるために造られた水路橋。1927 (昭和 2) 年完成。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)及び信濃の橋百選に選定されている。現在は町道(車道)として利用されている。	箕輪町中箕輪八乙女
でんべえごい 伝兵衛五井	いとうでんべえ 伊東伝兵衛は三峰川流域を中心に数々の井筋工事を手がけたが、特に黒河内井筋 <small>くろごうちいすじ</small> (お鷹岩井筋 <small>たかいわいすじ</small>)、小原井筋 <small>おぼらいすじ</small> 、大島二番井 <small>おしまにばんい</small> 、鞠が鼻井筋 <small>まりがはないすじ</small> (伝兵衛井筋 <small>でんべえいすじ</small>)、上伊那井筋 <small>かみいなし</small> (伝兵衛堰 <small>でんべえぜき</small>)が有名でこれらを伝兵衛五井と呼んでいる。伊東伝兵衛が書き残した図面が伊東家に残されている。	伊那市富県～東春近
きそやまようすい 木曾山用水	塩尻市(旧木曾郡檜川村)の奈良井川の源流白川より水を取り、中仙道奈良井宿 <small>ならいじゆく</small> から伊那へ通じる権兵衛峠 <small>ごんべえとうげ</small> に沿うようにして、北沢川へ流すための延長約 12km に及ぶ水路で 1873 (明治 6) 年に完成した。本来、日本海へ流れるはずの奈良井川上流白川の水は、この水路を経て太平洋へ流れることになった。	塩尻市(旧木曾郡檜川村)～伊那市上戸、中条

	<p>権兵衛峠には分水嶺の碑・古畑権兵衛碑・井筋水榭（奈良井川から北沢川井水を取り入れていた榭）がある。</p>	
御子柴艶三郎による井戸	<p>1898（明治31）年、御子柴艶三郎が作った井戸。御子柴艶三郎は私財を投げ打ち、神に命を捧げる約束のもと横井戸を掘り、苦勞の末に水脈を発見。1899（明治32）年12月、約束通り命を絶った。水神宮・碑・穂坂式分水タンクなどが現存する。</p>	伊那市荒井
竜西一貫水路	<p>1969（昭和44）年に竣工。南向発電所（中川村）の放水路から取水し、天竜峡付近に至る。総延長24kmの西天竜一貫水路とほぼ同規模の大用水。これにより、天竜川右岸の扇状地上は、諏訪湖の下流近くから天竜峡に至るまでのほぼ全域が灌漑されることになった。</p>	飯田市、駒ヶ根市、中川村、松川村、高森町
竜東一貫水路	<p>「県営灌漑排水事業」として建設された一貫水路。小渋ダムから飯田市下久堅まで流れる用水路。1967（昭和42）年着工、1979（昭和54）年に竣工したこの用水路により、既成田407ha、開田141ha、畑地238haの計786haが灌漑されるようになった。灌漑対象地域は、松川町生田、豊丘村、喬木村、飯田市下久堅であり、その受益地域は主に標高450～550mの南北に細長い段丘上である。</p>	飯田市、松川町、豊丘村、喬木村、大鹿村
松川プール	<p>飯田市中心部は台地上に立地し、生活用水の確保が大きな課題であった。そのためプールなどに使える水はなく、周辺の河川やため池で水泳をしていたが、1925（大正14）年、鼎村の本田亥太郎が私有地を提供し、松川の水を引き入れた「松川プール」を建設した。松川プールは周辺の学童・生徒や多くの住民に利用され、水泳大会が開かれたほか、プールサイドに植えられた桜が花見の名所にもなるなど、飯田市郊外の身近な行楽地であった。その後、水質の問題や設備が充実したプールの要望が高まり、1960（昭和35）年、飯田市民プール建設に伴い、しだいにその役割を終えた。現在、松川プールは池になり、敷地はブライダル施設、周辺は桜の名所となっている。</p>	飯田市
西天竜幹線水路流末の階段工（小沢のそろばん滝）	<p>西天竜幹線水路を小沢川へ落とすための階段工。困難な工事の末、完成した。その後、用水の落差を活用した発電所を小沢川沿いに設置することとなり、発電所は昭和36年に完成した。水路の水は導水管により発電所に入ることとなり、それ以来、階段工は使われなくなった。諏訪湖から流れてくるウナギやワカサギがときどき採れたため、近所の子どもたちは楽しみにしていた。</p>	伊那市小沢
(重複)太田切川の井筋	<p>駒ヶ根市や宮田村は太田切川の扇状地上にあり、太田切川は農地や集落のある場所より低い崖下を流れていたため簡単に水が引けず、農業用水や生活用水の確保に苦勞していた。そこで人々は谷の出口から取水することを考え、用水路が開削された。太田切川の井筋は上流から①黒川井（宮田井ともいう）、②「上の井」、③「下の井」、④丸山井、最下流に⑤下平井の五用水があった。太田切川左岸の宮田七箇村は①と④の水利権を、右岸の駒ヶ根市は②③⑤の水利権を持っていた。「上の井」は木曾山脈山麓をほぼ等高線沿いに流れるので、別名「横井」とも呼ばれている。</p>	駒ヶ根市、宮田村
(重複)千人塚公園城ヶ池	<p>戦国時代に山城があったが、織田軍の侵攻により落城し、その際になくなった兵士やその武具などがこの場所に埋没された。そこから「千人塚」と呼ばれる。城ヶ池はもとは城の空堀だったが、昭和初期に水を引いて灌漑用の温水ため池にした。池の築造は、当時政府が国内ですすめていた農村経済厚生事業により展開されたものである。2010（平成22）年ため池百選に選定された。</p>	飯島町七久保
(重複)恩田井水	<p>水不足に苦勞した阿智村の伍和（ごか）地区に水を運んでいる用水。大変険しく崩壊しやすい花崗岩地帯の山中を山越え谷越えして造られている。伍和地区が水利権を売る形で、下條村親田地区にもつなげており、この収入で用水の維持管理をしている。</p>	阿智村

5. 「文化の交流に関する先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 人々の暮らしを支えた中馬と通船の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
いりふねふなつきば 入船船着場	江戸時代から船着場として利用された場所。明治になって通船が盛んになり、運行も多く行われた。明治30年代になると、坂下と時又間の定期通船も始まった。大橋のたもとにあり、弁財天宮の脇に、1971(昭和46)年建立の史跡標柱が残されている。	伊那市坂下
ときまたこう 時又港	通船の最盛期を迎えた明治の終わりから昭和の初めにかけて、伊那谷と遠州地方をつなぐ重要な水の道として栄えた。その後、各所に設けられた発電ダムにより水の道は分断されて終焉し、今は、観光遊船が行われているだけとなった。	飯田市時又
いなかいどう さんしゅうかいどう 伊那街道(三州街道)	伊那街道は、中馬で荷駄を運ぶ通商の道として、江戸時代は盛んに利用された道。別名三州街道とも呼ばれ 中山道塩尻宿から分岐し、辰野、伊那、駒ヶ根、飯田と南下し、浪合、平谷、根羽の各村、柚路峠を経て三河足助を経由し岡崎で東海道に合流する。現在の国道153号線は、ほぼこの道筋をたどっている。浪合には復元された関所跡がある。	辰野町～根羽村

(2) 人々の暮らしを支えた橋の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
こやきょう 姑射橋	天竜川随一の景勝地「天竜峡」に架けられた、四代にわたる歴史のある橋。三六災害時の「天竜川氾濫最高水位の碑」が設置されている。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市龍江～川路
みなばらばし 南原橋	天竜川で最初につくられた定橋。1870(明治3)年に完成した初代の南原橋は、橋脚を使わない「はね橋」構造であった。川幅が30間(54m)と比較的狭いが断崖絶壁の鷲流峡に橋を架ける仕事は容易ではなかった。南原橋右岸川岸にははね木を支えたと思われる穴が開いている。左岸側にある橋場稲荷境内には、昭和3年に建てられた南原橋の碑がある。	飯田市下久堅南原～駄科
(重複) きたの さわめがねばし 北の沢眼鏡橋	田切地形である北の沢川(辰野町)の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成1889(明治22)年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。国登録有形文化財及び信濃の橋百選に選定されている。	辰野町羽場
(重複) さかどばし 坂戸橋	1993(昭和8)年に竣工した優美な鉄筋コンクリートアーチ橋で、建設当時、鉄筋コンクリートアーチ橋としては我が国最大のスパンを誇った。コンクリートでありながら木彫の面取りを採り入れ、柱は上に細くそそり立つ。そのデザインは圧巻である。2010(平成22)年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	中川村大草～片桐
(重複) こしぶばし 小渋橋	三六災害の際に発生した大西山の大崩壊は、42名の命を奪った。三六災害で一帯が賽の河原と化した中で、変わらぬ姿で架かっていた3連アーチの橋。アーチと桁側面のへこみがしっかりと造られ、コンクリート橋の外観を引き締めている。白銀の赤石岳をバックにしたシルエットが美しい。信濃の橋百選に選定されている。	大鹿村大字大河原
びつたらばし びつたら橋	江戸時代末期まで、諏訪湖の排水を妨げるような橋を架設することができなかったことから、川の中に石を置き、その上に板を渡して渡った。板が安定するように石の上に平らなくぼみを彫り、増水時、板が浮いても流れないように、綱を石の穴に通して結んだ。通行人が歩くと、橋板がたわんで川面を「びたびた」と打つため、「びつたら橋」といわれたという。	岡谷市御倉町
おおはし 大橋	古くは通船の船着き場であった場所。今昔とも往来の要衝にあるこの橋は、近隣では大きさも際立っていたことから、自然に「大橋」の名が定着したようで、現在もそれが正式名称となっている。この橋の記録は、織田軍の侵攻(1582(天正10)年)の記述がある『下条記』に「伊那部前之橋」とあるのを筆頭に、『信濃国絵図』(1647(正保4)年)や『高藩探勝』(1743(寛保3)年)にも描かれるなど、古くから記録が残っている。長い期間「木橋」だったが、1933(昭和8)年に永久橋となった。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市中央～坂下

にじばし 虹橋	1958（昭和 33）年に完成した高遠ダムから取水する灌漑水路。三峰川右岸の農業を支えた水路橋で、アーチ型をしていることから「虹橋」と呼ばれる。管理道は地域住民が歩道として利用している。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市高遠町～美篁
ばし おさひめばし めがね橋（長姫橋）	1878（明治 11）年、アーチ型の石橋が完成。石材と埋め立ての土砂には、明治維新で解体された飯田城の石垣の石と真砂が使われた。この時、飯田城の古名を残すために「長姫橋」と改称されたが、市民からはその形状から「めがね橋」と通称された。1947（昭和 22）年 4 月の大火後、上流側の谷は埋められ公園化。橋の石製の欄干も鋼鉄製に取り替えられた。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市伝馬町～銀座
いな じばし 伊那路橋	江戸中期には架設され、伊那谷と江戸を結び中馬輸送を支えた街道の橋。現在の橋は 1994（平成 6）年に架け替えられた。当時の橋は「大橋」と呼ばれており、掛かる費用を幕府が負担する「主要街道の橋」と位置づけられていた。信濃の橋百選に選定されている。	箕輪町東箕輪～中箕輪
きたの じょうばし 北の城橋	この場所は、たびたび水害に遭うため渡船が常用されていたが、すぐ下流に大久保発電所が完成したことなどを受け、造られた吊り橋。伊那市と宮田方面を結ぶ生活道路として欠かせない存在。信濃の橋百選に選定されている。	宮田村、駒ヶ根市
なかのばし 中之橋	我が国最初期の「鉄筋コンクリート製カンチレバー桁橋」の一つで、県内では 2 番目に古い。阿知川の洪水に耐えうる永久橋として建設された。信濃の橋百選に選定されているが、架け替えが予定されている。	阿智村駒場
なんぐうおおはし 南宮大橋	古くは渡船場があったが、1897（明治 30）年に左岸の温田地区と右岸の御供地区が私設有料橋として中州（中ノ島）を境に木橋と吊り橋を架けた。戦後は県が管理した。現在の斜張橋は災害で冠水した教訓などから、高い位置へ架け直されている。信濃の橋百選に選定されている。	泰阜村、阿南町
てんりゅうばし 天竜橋	長野県が管理する唯一の吊り橋。秘境の無人駅、JR 飯田線為栗駅に通じるだけの歩行者専用の吊り橋だが、同駅前が県道為栗和合線の起点であるため、駅前まで車は入れないが県道である。信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島
はごろもぎきばし 羽衣崎橋	天竜川の名勝「羽衣崎」は、平岡ダム湖の湖面となる地にあり、山紫水明の渓谷の自然美と調和したニールセンローゼ形式が採用されている。平岡ダム湖岸道路開設事業として 1974(昭和 49)年に完成。県最南端地域の生活を支える重要な道にある。信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島

(3) 人々の暮らしを支えた森林鉄道の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
みぶがわ しんりんてつどうあと 三峰川の森林鉄道跡	1941（昭和 16）年に部分開通し、最盛期には杉島～北荒川まで 23.6km が整備されていた森林鉄道。三六災害で流失し、現在は林道が整備されている。	伊那市
とおやま しんりんてつどう なしもとちよぼくじょう 遠山の森林鉄道 梨元貯木場	1944（昭和 19）年から 1968（昭和 43）年まで、木材を運び出す手段として使われていた鉄道。梨元には貯木場が設けられていた。「夢をつなごう遠山森林鉄道の会」ができ、2012（平成 24）年 11 月 18 日には「梨元ていしゃば」に復元したレールに機関車を走らせた。	飯田市南信濃

(4) 人々の暮らしを支えた峠の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
うしくびとうげ 牛首峠	標高 1072m。辰野町小野の西、飯沼の村はずれの小さな鞍部で、太平洋と日本海両水系の分水嶺となっている。伊那谷北部から木曾への唯一の道で、桜沢道と呼ばれ近世後半には高遠領から贅川宿の米問屋へ、年貢米が馬一頭に二俵付けで盛んに運ばれたり、木曾助郷の人馬の通り道であった。	辰野町
じぞうとうげ 地蔵峠	大鹿村の青木川と上村の分水嶺となっており、古くから秋葉街道の中の難所。標高 1314m。古くは「遠山峠」とも呼んだ。名前の由来の地蔵は、元々峠の南にある「堂屋敷」地籍に安置されていて、四基あった内の二基を大正時代頃に相次いで移転したものであるという。	大鹿村、飯田市

<p>うととうげ 善知鳥峠</p>	<p>標高 889m。太平洋側の伊那谷と、日本海側の松本平の分水界になっており、峠には分水嶺の碑もある。江戸時代から明治の初期までは、中馬の発着点の松本と飯田を結ぶ伊那街道の峠として人馬の往来で賑わった。馬の供養や安全祈願のために建てられた石の馬頭観音が、峠から北小野にかけての街道沿いに非常に多い。</p>	<p>塩尻市</p>
<p>おおだいらとうげ 大平峠</p>	<p>飯田市と南木曾町の境にある峠である。大平街道は伊那と木曾、両方の谷を最短距離で結ぶ街道で、大平峠と飯田峠の二つの峠がある。この道は 16 世紀後半から活用され、明治・大正には大平宿として隆盛した。峠からの眺めは東方が開けているので松川の溪谷・風越山から飯田市街・伊那山脈・赤石山脈が一望できすばらしい景観である。大平集落は集団移住し、大平宿の面影はないが、「大平を守る会」が活動している。近くに県民の森があり、遊歩道も整備されている。</p>	<p>飯田市</p>

(5) 自然と共生してきた先人の暮らしを体感できるもの

名 称	説 明	所 在 地
<p>いなしすわがた ししがき 伊那市諏訪形の猪垣</p>	<p>江戸時代、藤沢川から太田切川に至る標高 700m の地域に、イノシシやシカなどの農作物への被害を防ぐために造られた柵。伊那市史跡の猪垣が残り、土手の上に乱杭を連ねた木柵が復元されている。</p>	<p>伊那市西春近</p>
<p>さんよりこより</p>	<p>みすず とみがた 美簗と、富県桜井の天伯様に伝わる七夕祭りで、毎年 8 月 7 日に行われる。七夕の神事。三峰川の洪水を鎮める目的。 伝承によれば、室町時代の中期、1427（応永 34）年、<small>ふじさわかたくら</small>藤沢片倉（現高遠）に居られた天伯様が洪水によって富県桜井に流れ着き、その後再び洪水によって美簗川手に流れ着いた。これを縁として、桜井と川手に天伯様をお祀りしたのがはじまりとされ、足利時代の 1472（文明 4）年から続いていると云われている。</p>	<p>伊那市美簗、富県</p>
<p>とおやま しもつきまつり 遠山の霜月祭</p>	<p>ゆたてしんじ 湯立神事で古代に宮廷で行われていた祭事が伝承されていると言われている。1979（昭和 54）年には霜月祭りが国重要無形民俗文化財の指定を受けた。上村と南信濃に伝わる湯立神楽。12 月上旬から翌年 1 月上旬までの 1 カ月間に両村合わせて 13 の神社で行われている。神事の中心は水にかかわる湯立であり、神事全体を通じて防災意識が見られる。</p>	<p>飯田市上村・南信濃</p>
<p>ゆきまつり 雪祭</p>	<p>新野（にいの）の雪まつりは、雪を稲穂の花にみたく、大雪（豊年）を願うまつり。雪は水の源で農業に欠くことができない。伊豆神社境内で行われ、田楽・舞楽・神楽・猿楽、田遊びなどの日本の芸能絵巻が徹夜で繰り広げられる。1977（昭和 52）年、国重要無形民俗文化財に指定されている。</p>	<p>阿南町新野</p>
<p>てんりゅうむら しもつきかぐら 天龍村の霜月神楽</p>	<p>毎年正月の 1 月 3 日から 5 日にかけて、向方地区（お潔め祭）、坂部地区（冬祭）、大河内地区（例祭）で行われる冬祭り。いずれのお祭りもかまどを築いて湯をたぎらせ、それを神々に献じてから人々にも振りかけて魂をきよめ、同時に神歌をうたい、あるいは舞を奏するという湯立神楽の形式をとどめており、祭り全体から水の神聖さが伝わる。1978（昭和 53）年、国重要無形民俗文化財に指定されている。3 地区のうち坂部は、仮面の舞等豊富な内容をもっている。</p>	<p>天龍村坂部</p>